



中高生グループ
思春期まっただ中の彼ら、家で学校でもないところで見せる顔は…
現在は中1から高3まで13人の中高生グループ、ある日の事務局(中高生グループの文字通りの居場所)。初めて事務局にやってきた新入りくんが席に着いたとき、おたがいにだれ?とも聞きあわないまま、ゆるゆると会話の輪ができていったとか。いつもメンバーどうしさりげなく尊重しあい、不思議な距離感をキープしています。

今年の、キャンプ～自然の中を元気に駆け回ろう!～
8/3(金)～5(日)豊田湖畔キャンプ場

キャンプ場選び、下見から始まる中高生グループの活動
予定していた夏木原キャンプ場が水道管の故障で使えず、場所探して難航。二転三転した結果、豊田湖畔の地を選びました。淡白なようでいて“こだわるところにはこだわる”、それが彼らの流儀!



薪の火つけも料理のワザも年々上達
最近の恒例、献立のカレーは材料をゲームの勝ち負けで選べるやり方。今回、ゲットした鶏肉が苦手という子のために、カレーは肉ナシ、鶏肉は別にソテーして…なんていう班も出現!(この心配りにはおとなも脱帽でした。)

終わったあとの文集作りも
キャンプの文集には「初めてのひとなかよくできた」、「交流ができてよかった」、そんな感想を寄せた小学生が少なくありませんでした。そんなコミュニケーションを仲立ちできちゃう中高生!

どうした、スマホ?
中高生グループ、イベント時にはいつも“NO スマホ”がおやくそく。家では肌身離さず?持っているスマホなのに、このキャンプでもだれも文句を言わなかったとか。

活動するとき、周りにはいつもヤキモキしながら見守っているおとながいる
彼らも親には無口だったり、口答えしたりするけれど、スタッフのおとなとはふつうにコミュニケーションがとれているというから不思議。(ウスイ)

わすれない3.11
福島県いわき市出身の釣巻洋子さんは中学2年の時に東日本大震災にあった。その翌年、経済協力開発機構(OECD)などが被災地の中高生を集めた「東北スクール」に参加し、被害を伝えるバリエーションのイベントの広報や資金集めに携わった。

あれから7年、京都の同志社大学・生命医科学部に進んだ洋子さんはこの夏、「世界学生環境サミット」で開会宣言をしました。サミットの共通テーマは「文化と自然の共生」で、災害対策などについて約100人の学生たちが議論を深めたとのこと。
「このまま科学技術が発展すれば限界が来る。科学や文化と環境をどう共生させるか、世界の学生と一緒に考えたい。」「被災者というフィルターをかけずに自分の行動を見てほしい」と語る洋子さんには高校時代の苦悩を乗り越えた力強さがありました。
(2018/8/25 朝日新聞「ひと」欄より抜粋)

10月3日～こどもステーション山口 これからの予定

- 10/14(日) 人形劇ともだちげきじょう
- 10/26(金) スギテツ音楽会 きがるにプラボー!
- 12/15(土) YEN TOWN FOOLS ピクチャーブック
- 2/16(土) 舞台劇 キッドナップ・ツアー
- 3/10(日) こどもステーション・リ・フリー2019
- 3/16(土) でべそ版ずっけ狂言 でんでんむしむし 48
- 毎月1回開催 幼児クラブ モコナ
毎月第2火曜 10:30～吉敷地域交流センター 未就園児の子どもたちの遊びの会を開いています。
- 赤れんがだより**
こどもステーション山口は、C・S赤れんがの指定管理者です。11/1～2/28は、内装工事のため、休館します。なお、窓口業務は行っています。
3/2(土) チェンパロコンサート



たちどまってミルかんがえてミル
登下校、荷物が重いよ。1p

特集 もうおとな?まだ子ども? 「ワタクシ、“思春期”なんで。」 2p

子どもたちの体験と活躍がすてき!こどもまつり2018
トイレットペーパーからイメージする!クリエイトする! 3p

中高生グループ 4p

ぐるーぷさーん ピンポ～ン!
ピース★バンビーノ 4p

友だちに背中をおしてもらって、スピード好調!服のままでザブーン! 酷暑の中のキャンプ。ウォータースライダーは気持ちよかった。

登下校、荷物が重いよ。

山口市の小学生。日々の荷物の重さは5kg前後のようです。小学1年生の平均体重は21kg。これは、体重50kgの大人が12kg(2Lのペットボトル6本)を毎日背負って歩いているようなもの。体重の20～30%の荷物を長時間もつと健康に悪影響があるという報告もあるんです。



こどもステーション山口とは
子どもたちが文化芸術に親しんで、心豊かな子ども時代が過ごせるように活動しています。プロの舞台芸術に出会う舞台鑑賞会のほかに、キャンプやこどもまつりなど、たくさんの仲間とつよよ活動できる場をサポート。大人にも、“子どもと共に育ちあう”学習の機会を提供しています。また各地区ブロックでは、会員が地域のつながりを大切にしながら独自の楽しい活動を行っています。

入会お待ちしております…舞台鑑賞会の入場料が無料です!
正会員 月会費2,500円(子どもの登録OK)
子どもの登録料(一人400円/年)
準会員 月会費1,300円(大人だけの参加)
賛助会員 個人会費:一口5,000円/年
団体会費:一口10,000円/年
※寄付も随時、募っています。
※年間3,000円以上ご寄付いただいた方は確定申告により、税額控除が受けられます。

編集後記 ■夫に言わせると、わたしは「子どもを育ててない、一緒に生きてるだけ」だそうです。彼は皮肉で言ったらしいけど、ん?これってもしかしたら、ほめ言葉!?一緒に生きるってすごいよね? 悩むことももちろんあるけど、わたしの子育て、まちがってないかも、と逆に勇気をもらいました。(カキタ)

こどもステーション山口 WEBサイト
http://blog.canpan.info/kodomo_s_y/
こどもステーション山口の様々な活動を紹介しています。
事務局日記 <https://blogs.yahoo.co.jp/co26station>
日々の色々をつづっています。
Facebookもチェック!

○2018年度4月～9月にご支援いただいた方
《団体賛助会員》4団体 (敬称略・順不同)
■ビジネスホテル富士の家 ■塗装 秋貞
■おどの診療所 ■永田こどもクリニック
《個人賛助会員》 43名
《「支え人。」としてのご支援をいただいている企業》
■(株)メルシー ■リンドヴルム
《ご寄付いただいた方》 32名 15団体
《こどもステーション山口の9月の会員》
正会員 152人 準会員 62人 子ども登録数 306人 計520人

YA!
【こどもステーション山口 広報紙】
2018年10月1日発行
発行:認定NPO法人こどもステーション山口事務局 開局日 月～金10:00～17:00
〒753-0047 山口市道場前2-4-20国近ビル2F
TEL・FAX 083-925-1486
✉ co26station@yahoo.co.jp



それまで軍隊の装備品であった「ランドセル」。明治時代、学用品を生徒が自分で持ち登校するための通学鞆として学習院初等科で導入されました。しかし、これは高級品。戦前の一般庶民の間では、風呂敷や布製ショルダーバッグが主に使われていたようです。今や「ランドセル」は、子の成長の証だったり、祖父母からの愛情表現だったり。小学生の象徴となっています。近年、この「ランドセル」が子ども達の身体の負担になっているそうです。前かがみになって歩く小学1年生の姿。小学生

が肩こり!?なんて話も聞きます。しかし、「ランドセル」自体は、軽量化、背負いやすさなど進化しています。問題は、中身のよう。“脱ゆとり”の2011年以降、教科書は分厚くなりページ数も増え、大判化。教材も増えました。その上、大きな水筒や、時には習い事の道具なども。全体の重さは、40年前の倍以上になっているそう。
「家庭学習が必要」「紛失やいじめの道具に使われてしまう可能性」などの理由から“置き勉”は禁止が一般的になったようですが、時代の変化に、子どもの現状は置き去りになってしまいました。
保護者は「ランドセルに加え、首から水筒、手には荷物。できるだけランドセルに全て入れてあげたい」「置き勉で紛失の恐れがあるなら、学校で預かってほしい」など。そして声を揃えて

中学生はもっとタイヘン!?
ボストンバッグ型からリュック型に変えた中学校も増えていますが、中学生の荷物はまだまだ重い。資料集やワークが増え、部活道具も。この重さに疑問を感じ、生徒たちが自ら動き出した学校も。
広島市の中学校生徒による制作動画↑

「ワタクシ、“思春期”なんで。」

子育てに悩みはつきもの、というけれど、悩みのなかでもとてつもないもののように思えるのが「思春期」。おとなは、お年頃の子どもの心に、はてさてどこまでよりそえるのか。これから迎える人も、いままさに、の人も、そんなことあったねー、の人も、このページを開いてくれた子どもたちにも。少しでも、モヤモヤの先が見えますように。

●思春期って、(たぶん) こういうこと。

子どもがイライラしている、口をきいてくれなくなった、暴れる。わたしのなかの思春期は、そんなイメージでした。少し調べてみると、「思春期＝青年期(11～20才)の前期。第二次性徴が現れ、精神的にも大きな変化が現れる時期」「からだ成長し、物に感じやすくなり、特に異性に対する関心が強くなる年ごろ。(新明解国語辞典)」などありました。つまり、思春期は身体が大きく変化するなかで、心も敏感になる、予想通り大変な時期のようです。

●なんと、反抗期もやってくる!?

一般的に反抗期、といわれているものには、2～4歳の第一反抗期、いわゆるイヤイヤ期と、小学校高学年～高校生ごろの第二反抗期があります。この、第二反抗期と思春期の時期が重なってしまうのが問題の根源。身体の変化と心の変化と、反抗したい気分とが同時にきてしまうわけです。これは大変。そりゃ、暴れたくもなる! 「うるせえ」「くそばばあ」などと言う、無視する、にらみつける、などなど。症状はさまざまですね。

●親にできること。

ある日突然、子どもが豹変してしまったら、親はどうしたらよいのでしょうか? ここでは、先日講

演していただいた、永野むつみさんの言葉をお借りしようと思います。

「うるせえ、くそばばあ、と言われたら、赤飯を炊こう。」

あんなにかわいかったわが子がなぜ、と、悲嘆にくれているときを、赤飯でお祝いだなんて!?

「そもそも反抗期と呼び始めたのが、不幸のはじまり。これは、意思表示期。自己決定権がほしい、おとなとして扱ってほしいと訴えているのです。」

やがては巣立っていく子どもたちが、自立への第一歩をふみだすとき。たしかに、成長の証です。

●おとなにできること。

「わたし、たぶん思春期なんよ。」以前、当時5年生だった近所の女の子から、そう告白されました。自分でもよくわからないモヤモヤに、思春期という言葉がつくと、なんだか安心して、許されたような気がするのかな、と思います。イライラしていいんだ、ちょっとぐらい暴れてみていいんだ、悩んで当然なんだ。だって、思春期だもん。

しょうがないじゃんって。

同時に、そうやって口に出すことが、その子にとってのガス抜きのようなものになるのかもしれない。親でもない、先生でもない、そこらへんにいるおとなにだから、つぶやける一言。いろんな人のなかで育つということは、こんなときに意味をもってくるのでしょうか。近所のおばちゃんとか、おじちゃんとか、子どもたちは面倒に思うときもあるかもしれないけど、きっと助けになることがあると思うのです。そんなおとなが、どの子のそばにも、いるといいなと思います。

モヤモヤとした毎日をつみかさねながら、子どもたちは一步一步、おとなへと、旅立ちの日へと、進んでいくのです。

ちなみに、最近のある文献によると、思春期は24才ごろまでという説もあるそうです。これはちょっと長い…。(カキタ)



赤い羽根共同募金
平成30年度赤い羽根共同募金県域助成事業

わたしたちは、人生の先輩として尊敬できるかどうか、子どもに試されています。だから、ちゃんと立ち向かわなきゃいけない。「ふつうは、〇〇」は使わず、「I think」で考えて。「いろんな考えがあるのは知っているけど、わたしはこう思う!あなたがどう解釈するかは別として」と伝えていくことが必要。子どもは、親を見ながら価値観を育ててきました。それが親にとって、いちばんの子育てのしんどさ。あなたはなにものなんだという視線にみつめられ、ひたむきか、ということをお問われているのです。

永野さんご自身の子育てを振り返りながらのお話は、ときに切なく、でも前向きな思いにさせてくれました。

なぜ子どもが「うるせえ」と言うのかということ、それは、本当にうるさいから。子どもが学校に行くまでの朝の1時間を録音して、みんなで聞きあってみたいいいよ、という言葉には、みなさん我が身をふりかえってか、苦笑いでした。(カキタ)



子どもたちの体験と活躍がすてき!

こどもまつり 2018 トイレットペーパーからイメージする!クリエイティブ!

4月29日(日)、晴天の下371人の参加者が集い、午前中は人気のありんこ市、そして午後、集団遊びへ突入! 中高生グループがリードする「だるまさんがころんだ」に次いで、今年のテーマ「みんなでつくろう あそびの世界へ冒険だ!～今日のアイテムはトイレットペーパー!??～」に挑戦。

わたしたちはふだん「限りある地球資源のムダづかいがダメ」と子どもにも言っています。これは、正しいこと。けれど、今回思い切って、遊びの素材にしたのはトイレットペーパー! 今回限りの「思いっきり」を体感しました。青空のもと、思いっきりなげたペーパーがうける風を身体で感じる。友だちとペーパーを伸ばして、走る。体にペーパーをグルグル巻きつけ、



ドレスをつくる。子どもはふだんの禁止から解放され、「自由に発想すること」「思いきりやってみること」の快感を身体いっぱい楽しんでいました。遊び方にモデルはなく、様々なアイデアから、大人も交えてオリジナルな遊びに挑戦する楽しさに燃えました。ものの概念を取っ払ってイメージするのは、大人になってしまうとなかなか難しいこと。ものに対する先入観なしに自由に身体いっぱい感じてくれることも、子ども時代の今だからこそ。固定的な考えからうんと自由になって発想する、こんな挑戦がいっぱいできるといいですね。(ウスイ)



あちこち de アート 2018

■マイ・クロ・シアター (低学年対象)
■そうぞうりょくのたね (乳幼児対象)
7月5日(木)～9日(月) 各地域交流センター一他



地域の人たちと楽しむ「あちこち de アート」。学校やご近所のお友達も、み～んなさそって、笑って、驚いて、感動して。もう一度観たい!!の声多数!

北海道から来てくれたジャグラー・KUROさんの魅力的な技と世界観に、みんながくぎづけに。公演の後は、話題のカプラーで、積み木体験。みんなの作った塔に色とりどりのあかりを灯し、絵本のような世界ができました。

学校以外の場所に集まって、日常とは違う時間をすごす。こんな体験はきっと子どもたちの記憶に残るでしょう。

今年は、大雨の影響で延期や会場の変更がありましたが、そんな不安も吹き飛ばし、677人が舞台を楽しみました。

- 自分もしたくなりました。さいごの光のてじながとてもおもしろかった。(子ども)
- カップジュースに、キラキラしているものもいれて、おぼけみたくにすぐこわくて、かきたくんどきつききました。(小2男子)

2018 4月～9月 こんな舞台をみてきたよ

こどもステーション山口の舞台鑑賞会には、人形劇や舞台劇などいろんなジャンルがあります。



アラビアンナイト

～魔法のランプと明日のヒカリ～ (低・高学年対象)

人形劇団むすび座 5月24日(木) 山口県教育会館ホール
大きな人形を操る演者たちの演技で、人形たちが生き生きと動き出す。歌あり、意表をついた演出あり、客席までが舞台になりました。事前ワークショップでおぼえた殺陣で、子どもたちも主人公アミンになりました。

- 人形が生きているように動いていてエネルギーを感じました。(子ども)
- 今までランプを使えるのは3回だけかと思っていたけどどちがったからびっくりした。(10代男子)
- 憎しみは明日を変える力にはならない。(10才女子)
- 空とぶじゅんたんのってみたいな～。(子ども)

影絵音楽団くぶくぶ

きんぎょがにげた (乳幼児対象)

想造舎 5月12日(土) 山口市市民会館小ホール
いつもの絵本、ガムラン音楽、インドネシアの影絵。エキゾチックな新しい世界を魅せてくれました。

- 影絵の人形がリアル、はく力がある。(子ども)
- たのしかった。わががわかった。きんぎょがかくれるのがおもしろかった。(3才)

不思議の国のアリス

演出・振付・出演 森山開次 (高学年対象)

8月8日(水) 9日(木) 山口情報芸術センター・スタジオA
個性派ダンサーの繊細かつユニークなダンス。次々繰り出される摩訶不思議。子どもの頃って、こんな不思議の中で生きていたよなあ。

- はじめてこんなのを見たけど「こんな人になりたい!」と思った。(10代女子)
- ダンスってきれいだなあとはじめて思いました。(女性)



(下)撮影 宮川舞子

Report

思春期講座「あらしの時代をのりきるために」

講師 永野むつみさん 人形劇団ひばたあむ主宰



8月31日(金)夜、山口市男女共同参画センターに47名が集まりました。パワフルな永野さんのお話は、おなかにいる赤ちゃんは、母親の声を安心できるものと記憶している、というところからはじまりました。

思春期は、「安心できる声を持つ母親」につき従えば問題ない、と思ってきたことを、疑い始める時期でもあります。「うるせえ、くそばばあ」に込められた思いは、自己決定権がほしい、つまりおとなとして扱ってほしい、人生の主人公になりたい、自分の荷物自分で背負うから、ということ。この日を境に、家を出ていく準備がはじまるのです。母親にとっては、巣立っていく人、あとに残る人がいることを考えるとき。これから生きていこうとしている相手(夫)との関係を作っていくきっかけともいえます。